

さきがける 科学人

Vol.
34

SATREPS (地球規模課題対応国際科学技術協力プログラム) 防災分野
研究課題「マルマラ海域の地震・津波災害軽減とトルコの防災教育」

地震と津波に強い トルコ社会をつくりたい



悲しみを乗り越えて

幼いころからものをつくるのが好きでした。父が建築関係の仕事だったので、中学生のときに手伝いで図面も描いていました。大学で土木工学を専攻したのは自然な流れでした。

トルコは日本と同じように地震がとも多い国です。大学卒業直前の1999年に、トルコの北西部でマグニチュード7.4のイズミット地震が発生しました。たくさんの建物が倒壊して、大学があったコジャエリ県を中心に6万人以上の死傷者が出ました。日本では地震が起きると机などの下に身を隠しますが、トルコでは耐震設計が不十分な建物が多く、「すぐに建物の外に出るように」と教えられています。私も友人を亡くしました。自分がつくった建物で人が死ぬようなことがあってはいけません。地震自体を深く理解した上で建物の耐震、防災を考えなければ、日本へ研究しに来ました。

防災意識をもっと高めたい

現在は、マルマラ海の海底調査などを行っています。マルマラ海底には大きな北アナトリア断層が走っています。大都市

イスタンブールを含むマルマラ海沿岸は、大きなリスクを抱えた「地震空白域」なのです。一方で、防災対策は思うように進まず、海底の調査も十分されていませんでした。過去に発生したマルマラ海沿岸の津波についても、学校ではあまり教えられていません。

このプロジェクトは、マルマラ海に海底地震計などを設置し、周辺地域での地震観測のデータを基に、シミュレーションを行い、災害リスクを誰でも実感できるようにすることを目指しています。地方自治体やライフライン事業者、研究者を交えた「地域防災コミュニティ」をつくり、マスメディアと連携して広く情報を発信して、社会全体の防災意識を高めたいのです。そのためには、教育省や首相府災害危機管理庁 (AFAD) などのトルコ政府機関と協力して、最新の研究成果に基づいた防災対策を進めることが必要です。去年は、防災教育用のビデオ作成のために東日本大震災の被災地で撮影を行いました。

祖国と日本の架け橋として

若い時は人生のターニングポイントを見極めることが重要だと思います。そのためには努力や苦勞が必要です。私の場合は多くのすばらしい出会いがあって進



家族で和食のレストランへ行くこともある。長男のエルデムくんはやんちゃざかり。この名前にはトルコ語で「美德」という意味がある。

むべき道を見つけることができました。

今はこのプロジェクトで、トルコと日本の間の橋渡しをするリエゾンの仕事もしています。日本でも首都直下型地震や東海・東南海・南海地震が連動する巨大地震のリスクが指摘されています。この研究をトルコの町づくりや防災教育に役立てることができれば、その成果は日本でも生かすことができるでしょう。深刻なリスクを抱える両国だからこそ真剣な協力ができるのです。いつかは祖国に帰って、日本で学んだことを若い人たちに伝えていきたいです。

海洋研究開発機構
地震津波海域観測研究
開発センター
地震津波予測研究グループ
特任技術研究副主任
CITAK Seckin Ozgur
チタク・セチキン・
オズグル



チタク・セチキン・オズグル

1974年、トルコのイズミル生まれ。2000年、コジャエリ大学土木学部卒業。マケドニア共和国で地震研究後、01年来日。03年まで九州大学大学院人間環境学府都市共生デザイン専攻研究生。05年、同修士課程修了。08年、同博士課程修了。博士(工学)。08～10年、(株)大崎総合研究所研究員。10年から現職。好きな日本食は麺類とチキン南蛮で、納豆にはヨーグルトを混ぜて食べるのが好み。世界のどこでも「住めば都」が持論。

●チタクさんの詳しい研究内容を知りたい方はこちらへ
http://www.jst.go.jp/global/kadai/h2408_turkey.html

TEXT: 寺西憲二 / PHOTO: 浅賀俊一
編集協力: 井上給里子 (JST SATREPS担当)



マルマラ海の水深400～1200mのところに設置する海底地震計(総計15台の予定)。一定の期間が経過した後回収し、データの取得とバッテリーの充電などを行う。



JSTnews
2015/February

発行日/平成27年2月2日
編集発行/独立行政法人 科学技術振興機構 (JST) 総務部広報課
〒102-8666 東京都千代田区四番町5-3 サイエンスプラザ
電話/03-5214-8404 FAX/03-5214-8432
E-mail/jstnews@jst.go.jp ホームページ/http://www.jst.go.jp
JST news/http://www.jst.go.jp/pr/jst-news/



最新号・バックナンバー